

## I 大学・学部等の理念・目的および学部等の使命・目的・教育目標

### 【到達目標】

本学の設立母体シャルトル聖パウロ修道女会の精神を今日の日本において活かすべく、建学の精神と教育理念・目的・目標に基づいた教育研究体制やカリキュラムの一層の強化と発展に努めていく。そのために、本学の教育理念・目的・目標を、教職員及び学生、さらには、広く社会に周知するための体制を整備する。また、本学の教育理念や目的・目標を検証する仕組みを導入し、本学の教育研究活動全体を常に理念・目的・目標との関連で検証すると同時に、理念・目的・目標自体を社会とのかかわりの中で見直していく。

### 1. 理念・目的等

(1) 大学・学部等の理念・目的・教育目標とそれに伴う人材養成等の目的の適切性

#### 【現状】

本学の設立母体は 17 世紀末にフランスで生まれたカトリックのシャルトル聖パウロ修道女会である。わずか4、5人の村の少女達によって地域の子どもたちの教育向上と貧しい村民への食事、病人介護に奉獻することを目的としながら会員は徐々に増え続け、現在世界各国にその輪を広げている。300年の月日が流れた。

日本では明治11(1878)年、3人のフランス人修道女が函館に上陸し教育・福祉の第一歩を踏み出した。仙台では現在日本における八ヶ所の幼・小・中・高・大学・大学院を統括する学校法人白百合学園の一環として明治26(1893)年に文部省より私立仙台女学校の設立認可を受けた。仙台白百合女子大学の前身である仙台白百合短期大学は、昭和41(1966)年に家政科のみの短期大学として発足し、国際化が進む社会の流れにのって昭和62(1987)年に英語科を増設した。さらに、平成8(1996)年には、4年制大学として仙台白百合女子大学(人間学部人間発達学科、人間生活学科)を設置した。そして、平成14(2002)年、仙台白百合短期大学を統合して、国際教養学科を新設すると同時に、人間生活学科を総合福祉学科及び健康栄養学科に改組し、4学科体制として再スタートした。すなわち、現在、人間学部の中に、人間発達学科、総合福祉学科、健康栄養学科、国際教養学科の4学科が設置されている。各学科の構成内容、目的については後述する。本学の建学の精神として、キリストの愛の精神に基づく「人間の理解と援助」「社会変化への積極的対応」「教育による女性の社会的地位の向上への貢献」を通して“人類の真の幸福を築くこと”を掲げている。家庭や社会の中でさまざまな援助を必要としている人々に心から喜んでもらえるような援助をするためには、「人間」を精神的・身体的の両面から深く理解することが前提である。本学の人間学部の理念は、まさに、300年前の本学の設立母体であるシャルトル聖パウロ修道女会創立の精神、すなわち教育と福祉の伝統を脈々と受けついでいる。本学は、心と体の正しい成長のために必要な方法、ケアを研究し、「人間」とは何かを真剣に問い続ける4年間を学生に供給する場である。言い換えれば、キリスト教を根幹におく人間教育を学び、学問を通して真理を求め、正しい世界観を培う知性を磨き、他者への愛と献身を促す意志力を鍛え、真の美を見出す感受性を育てることを教育の目的としている。このような人間教育は、幅広い知識や教養、豊かな人間性を養って、変動の時代にあっても自らの意思と判断で人生を歩む社会人として、また、国際社会の中で他者を深

## I 大学・学部等の理念・目的および学部等の使命・目的・教育目標

く理解し、世界平和に貢献できる女性を育てることを目的としており、こうした目的に沿って常にカリキュラムの構成にも注意を注いでいる。

### 【点検・評価】

本学の建学の理念や教育目的をさらに充実・発展させるために、平成 14 (2002) 年に現在の 4 学科体制となって以降も継続的に改善の努力を行ってきた。平成 15 (2003) 年には、人間発達学科に保育士課程を、また、平成 19 (2007) 年には、幼稚園教諭養成課程を設置し、子どもの発達の支援と教育のための専門家養成に乗り出した。また、平成 19 (2007) 年には、全学対象に日本語教員養成課程を発足させると同時に国際交流センターを設置し、国際社会の中で他者を深く理解し貢献することができる人材を積極的に育成するための改革を行っている。しかし、国際交流については、本学学生の海外留学は実施しているものの、海外からの留学生がまだおらず、今後、海外大学との提携の拡大や本学への留学生の受け入れを行うことが必要であり、そうした面について、新設されたばかりの国際交流センターの活躍が期待される場所である。

### 【将来の改善・改革に向けた方策】

現在、本学の教育内容を社会の変化に対応させながら、その教育理念をさらに発展させるために、大学院の設置を検討している。特に現代社会においては、心理、福祉、教育等の人間を支援するための専門職養成の教育レベルが高度化しており、学部だけでは十分に対応できない状況になっている。社会人や既卒者をも視野に入れながら、「人間の理解と援助」や「女性の社会的地位の向上」に資するようさらに高度な教育・研究の場を構想している。

## (2) 大学・学部等の理念・目的・教育目標等の周知の方法とその有効性

### 【現状】

大学の理念を学生たちに体得させるために授業科目の中に、キリスト教学 I・II を 1、2 年次に、人間論 I・II を 3、4 年次に置いている。また全学的な行事として毎年一回の修養会を大学主催で行い、聖書に基づく講話によって自分を見つめ、祈ることの尊さを学ぶ機会としている。学生会主催の行事としては、クリスマスの準備のアドベントの集い・クリスマス会を企画し、キリスト教精神の浸透を図っている。また学生たちが自由に参加できるよう毎年春期休暇中に「イタリア・フランス研修旅行」を行い、ヨーロッパに根づいたキリスト教文化を学び、体験する機会を提供している。

なお、本学の建学の精神と教育目標については、全学生及び教職員に毎年配布している「学生便覧」の最初に明示している。また、本学のホームページ上にも掲載し、広く社会に対して、本学の理念・目的等を公表している。さらに、従来の入試広報課とは別に、「大学広報室」を新設して広報を強化しており、本学の理念や教育目標の発信を強めている。また、平成 19 (2007) 年 9 月にはキャンパス整備完成記念式典を行い、これを機に、広く地域社会に本学の建学の理念と教育目標を知らしめた。さらに、これを記念して本学紹介の DVD を作成し、本学の全学生・全教職員および地域の高校・大学に配布した。これによって、本学のルーツや理念・歴史・現状について、広く知ってもらおうと務めた。なお、昨年度から、学校法人としての白百合学園全体の共通のパンフレットを作成しており、これも併せて配布し、本学の理念を広く周知させるよう努めている。

## I 大学・学部等の理念・目的および学部等の使命・目的・教育目標

その他、本学の各部署が発行している様々な種類のパンフレットや広報誌（大学広報室発行『学報リスブラン』、入試広報課発行・大学案内パンフレット、就職課発行・求人用リーフレット、図書館発行『図書館報フォンス・サピエンティエ』、国際交流センター発行『ラ・ピアッツァ』）においても、本学の理念や教育目標についての紹介を行っている。

### 【点検・評価】

平成 18（2006）年に設置した「大学広報室」が、本学のホームページの管理を行い、建学の理念や教育目標について学生・社会・教職員に積極的に発信しており、情報発信・周知という点から大きな改善が行われたと考えている。

ただし、以上のような本学の取組によって、入学してきた学生たちが真に本学の理念や教育目標を理解しているかどうかは明確ではない。

### 【将来の改善・改革に向けた方策】

例えば、初年次教育において、本学の理念や目標を新入生に理解してもらうような科目（たとえば「白百合学」等の科目）を導入することなどの改善策が考えられる。今後の検討課題としたい。

## 2. 理念・目的等の検証

### (1) 大学・学部等の理念・目的・教育目標を検証する仕組みの導入状況

#### 【現状】

平成 18（2006）年度後期より、「部署別年次目標・評価書」いわゆる Plan→Do→Check→Action のサイクルによる自己評価・検証を導入している。学長・学部長・学科長・事務局長をはじめ、全学の運営組織の責任者が、毎年 4 月に、それぞれの部署の 1 年間の目標を明示し、学部長に提出している。その後、9 月末には、中間報告を行い、翌年の 2 月に最終的な自己評価を行い、学部長に提出している。

#### 【点検・評価】

「部署別年次目標・評価書」の実施は、開始からまだ 1 年半しか経ってないので、その効果について判断するための材料は少ないが、各部署の責任者が、1 年間の当該部署の目標を設定するための機会として次第に定着してきていると思われる。ただし、各部署の年次目標の設定の際に、本学の建学の精神や全学的な教育目標と各部署の目標を対応させる仕組みは十分とは言えないと思われる。さらに、2 月末に提出されたすべての部署の自己評価を、大学全体としてチェックし、それを各部署にフィードバックする仕組みもまだ工夫の余地があると考えている。

#### 【将来の改善・改革に向けた方策】

今後、年度初めの部署別目標設定の際には、本学の建学の精神や本学の教育目標を踏まえるよう指示すること、及び、各部署から提出された自己評価結果を、毎年 3 月に学長・学部長等がチェックし「フィードバック」するシステムを導入することを検討している。

### (2) 大学・学部等の理念・目的・教育目標の、社会との関わりの中での見直しの状況

#### 【現状】

上述したように、本学は、短期大学との統合、学科再編により、現在は、4 学科体制となっており、社会の変化への対応の中で本学の教育理念の具現化を進めてきた。こうした

## I 大学・学部等の理念・目的および学部等の使命・目的・教育目標

中で、建学の精神や大学の教育目的は、基本的には不変のものであり、踏襲すべきであるとは考えているが、それらを具体化するための手段としての、学科の内容や資格等について、より一層、社会の変化に対応させていく必要があると考えている。

### 【点検・評価・将来の改善・改革に向けた方策】

第一に、より高いレベルでの人材養成が求められている社会の動向に対応して、今後、本学の教育理念をより高度なレベルで実現させるための大学院を設置することが必要と考えられる。第二に、社会の変動に伴う社会的ニーズの変化に対応した学科再編等についても取り組むことが求められる。こうしたことから、現在、学内に学長の諮問機関として「大学院・学科再編検討プロジェクト」をスタートさせ、検討を続けているところである。その企画は、人間学部の理念をさらに発展させ、質的な向上をめざしたものとなることが期待される。